

2年越しのオリンピックが終わりました。多くの感動がありました。コロナ禍での開催には疑問を持った方も多かったと思います。ワクチンの普及で高齢者の重症化予防には効果があったようですが、感染拡大は止まらず、首都圏では感染の制御ができていない状態になってきました。コロナウイルスの変異は早く、現在はデルタ株が猛威を奮っています。出口の見えない暗闇の中で手探りで歩いているような気持ちです。有効な治療薬が開発されることが最も重要なことと思います。それにしても、震源地の中国で患者さんが少ないのは何故なのでしょう。中国人の食生活や漢方薬に、コロナウイルス感染を防ぐ鍵が隠されているのでしょうか？中等症から重症化した人に有効な薬は、ある程度見つかっていますが、軽症の方が悪化しない手軽な経口薬があれば、コロナウイルス感染も怖くなくなります。8月10日から高校野球、8月24日からパラリンピックがはじまります。これから、どうなっていくのか見当がつかいません。

【最近目立つ病気】

RSウイルス感染症、アデノウイルス感染症、夏風邪（エンテロウイルス属感染症）、胃腸炎が主に流行しています。上記の感染症は飛沫感染もしますが、主に接触感染で広がりますので、乳幼児に多く見られます。RS感染症は若年者ほど症状が重いので、特に生後6か月未満の乳児にうつさないように気をつけましょう。

昨年は全く流行しなかったこれらの感染症が何故、今年は流行しているのでしょうか。一つは、昨年の流行がなかったことで免疫のない乳幼児が増加したこと、二つは、昨年はコロナ対策で学校やこども園の休校、休園が多かったこと、三つは乳幼児の飛沫・接触感染対策は容易ではないことが理由として挙げられると思います。

では、夏風邪の代表であるヘルパンギーナや手足口病の流行が昨年と同様に今年も見られないのは何故でしょうか？この理由は分かりませんが、もとも手足口病やヘルパンギーナはコロナ以前にも流行の波がありましたので集団免疫と関係があるように思います。

【RSウイルス感染症】以下、[国立感染症研究所感染症週報 2021年第29週（7月19日～7月25日）：通巻第23巻第29号より一部改変し引用します。]

RSウイルス感染症は、乳幼児に多く認められる急性呼吸器感染症である。潜伏期は、典型的には4～6日とされている。生後1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%の人がRSウイルスの初感染を受けるが、再感染によるRSウイルス感染症も普遍的に認められる。初感染の場合、発熱、鼻汁などの上気道症状が出現し、うち約20～30%で気管支炎や肺炎などの下気道症状が出現するとされる。乳幼児における肺炎の約50%、細気管支炎の約50～90%がRSウイルス感染症によるとされる。また、早産の新生児や早産の生後6か月以下の乳児、月齢24か月以下で免疫不全を伴う、あるいは血流異常を伴う先天性心疾患や肺の基礎疾患を有する、あるいはダウン症候群の児は重症化しやすい傾向がある。さらに、慢性呼吸器疾患等の基礎疾患を有する高齢者におけるRSウイルス感染症では、肺炎の合併が認められることも明らかになっている。ただし、年長

の児や成人における再感染例では、重症となることが少ない。

感染経路は、患者の咳やくしゃみなどによる飛沫感染と、ウイルスの付着した手指や物品等を介した接触感染が主なものである。特に、家族内では、飛沫感染、接触感染を介して、RSウイルスが伝播しやすいことも報告されている。よって、家族内にハイリスク者（乳幼児や慢性呼吸器疾患等の基礎疾患を有する高齢者）が存在する場合、罹患により重症となる可能性があるため、適切な飛沫感染や接触感染に対する感染予防策を講じることが重要である。

RSウイルス感染症が重症化した場合には、酸素投与、輸液や呼吸器管理などの対症療法が主体となる。また、早産児、気管支肺異形成症や先天性心疾患等を持つハイリスク児を対象に、RSウイルス感染の重症化予防のため、ヒト化抗RSV-F蛋白単クローン抗体であるパリビズマブ（シナジス）の公的医療保険の適応が認められている。

【子宮頸がんワクチン(HPVワクチン)】

HPVワクチンの接種は、平成25年4月1日から予防接種法に基づく定期接種となりましたが、同年6月14日に積極的勧奨の差し控え通知が国から出されたことから、ほとんどの自治体で個別に接種をお勧めする内容及び予診票の送付等はしなくなりました。

令和2年10月9日付けで「公費によって接種できるワクチンの一つとして、本ワクチンがあること等必要な情報を対象者に知っていただく」旨が国から通知されたことを受けて、各自治体から定期接種対象者に個別通知が出されることになりました。金沢市でも令和3年6月から小学校6年生～高校1年生相当年齢の女子及び保護者に情報提供が送付されました。また、接種希望者には金沢市電子申請サービスを利用して接種券を請求することができるようになりました。当院では、接種希望者が増えているため、予約なしで接種できるようにワクチンを常備しています。

【新型コロナウイルスワクチン副反応】新型コロナウイルスワクチン接種後心筋炎の特徴は、現在のところ下記のとおりです。

・ワクチン接種1回目よりも2回目起こりやすい

- ・mRNA ワクチン接種後に多い
- ・高齢者よりも思春期や若年成人に、女性よりも男性に多い
- ・ワクチン接種後に発症する急性心筋炎の大半は軽症
- ・おもな症状は、ワクチン接種後数日後におこる動悸・息切れ・胸痛など
- ・心疾患のある人にワクチン接種後の心筋炎が多いというデータはない
- ・心疾患のある人はワクチン接種後の心筋炎が重症化しやすいというデータはない

現時点での日本小児循環器学会の基本的な考え方は、下記のとおりです。

『新型コロナウイルスワクチン接種後の心筋炎は、新型コロナウイルス感染後の急性心筋炎よりも発症率が極めて低く、新型コロナウイルスワクチン接種後の心筋炎は大半が軽症であることから、心疾患を基礎疾患にもつ患者さんにおいても新型コロナウイルスワクチン接種を基本的に推奨します。ただし、小児循環器疾患は個別性が高いため、不安があれば必ず主治医に相談してください。そして、新型コロナウイルスワクチン接種後に、動悸・息切れ・胸痛等の症状が現れた場合は、速やかに医療機関を受診してください。なお、接種後1週間激しい運動を控えるように指導している国もあります。』



☆西念の駅西福祉健康センター内の金沢広域急病センター（Tel:222-0099）では午後7時30分から11時まで、小児科と内科の診療を年中無休で行っています。加畑の担当は11/5の予定です。なお、9/19は当番医です。

☆金沢市では乳幼児の任意接種のワクチンについては金沢市電子申請サービスを行います。詳細は受付でお尋ね下さい。

☆当院のHp (<https://kabata-cl.jp>) から順番待ちシステムにアクセスできます。ネットで順番予約もできますので是非ご利用ください。

☆世界の宝「憲法9条」を次の世代に贈りましょう。

